

第95回 国際協同組合デー KJC宣言（案）

第95回国際協同組合デーを記念し、私たち県下の協同組合関係者は、「ICAメッセージ」および「JJCメッセージ」を心から支持するとともに、その実践に努力することを誓います。

2016年11月、「協同組合」は国連教育科学文化機関（ユネスコ）の次の世代に引き継ぐべき人類の財産である「無形文化遺産」に登録されました。

これは、一人一人では弱い人々が力を合わせ結集し、経済的な発展やくらしの向上、地域づくりといった課題を改善する活動である協同が、高い文化的な価値があるものとして世界に認められたことにほかなりません。

これまで新自由主義をけん引してきたアメリカやイギリスでも、グローバル経済のもとでの格差の拡大などによる閉塞感から、「協同組合を促進する決議」の採択や協同組合法の見直しを行うなど、協同組合を再評価する動きが出てきています。

一方、日本では、超党派の国会議員でつくる「協同組合振興研究議員連盟」が協同組合の価値を発信しつつ、産業別ではない協同組合全体を貫く法整備の検討に乗り出すなど、協同組合を見直す動きが出始めているものの、規制改革という名の下に、規制改革推進会議による農協改革をはじめとした一方的な協同組合への攻撃が政府主導で行われており、協同組合の役割や機能を再評価する世界の潮流から取り残されてくことに危機感を覚えます。

このため、我々は、世界の協同組合の仲間と連帯しながら、地域社会に根ざしたそれぞれの活動を基軸に助けあいを促進することで、広く県民に協同組合理念の理解・促進をはかり、県民の信頼と期待に応える組織として、協同組合運動をより一層発展させていきたいと思います。

第95回国際協同組合デーにあたり、私たちKJCに集う関係者は、県下協同組合間の連携・連帯をさらに深め、組合員・地域住民の平和とより良い生活をめざして、一層まい進することを誓い、ここに宣言します。

2017年7月

鹿児島県協同組合協議会（KJC）